

医療法人恵生会 南浜病院

2013-2014 Annual Report

ご挨拶



このたび病院年報を発刊できましたことは大変な喜びです。

病院は、地域の医療機関や保健福祉施設などとの連携を欠くことはできません。ですから、この年報を通して情報を発信することには大きな意義があると思います。

南浜病院は1955年（昭和30年）に誕生しました。約60年の歴史がある老舗の精神科病院であり、これまで地域に密着した精神科医療を提供して参りました。

病院の誕生の頃をたどってみると、今では想像もできない状況の中で医療を行っており、先輩方の大変な苦勞があって現在があることを職員は念頭におかなければなりません。

設立当初の病院は木造平家で男子30床、女子29床の合計59床、スタッフは院長、事務2名、看護11名、給食2名、雑務1名、運転手1名で、現在の基準と比較すると大変少ない人員でした。それでも当時の精神科病院に対する偏見のなかでよく集めたと思います。

今でも病院の所在地は人里離れたところですが、さらに60年ほど前は通勤に大変不便な場所でした。当時の国道113号線は農家の馬車が通る砂地の農道で、さらに田んぼの中を通る細い農道を経て、砂丘を上ったところが敷地でした。水道管は当然配管されておらず、水は地下水をくみ上げて確保し、電気は電柱を立てて配電してもらっていました。電話線は周囲に人家がなく大変な工事であった為、電話なしの病院でした。急を要する連絡は太郎代郵便局から電報で届けられていました。どうしても電話連絡を、となると約3Km離れた島見役場に電話を借りに行ったのです。電話は開院から10ヶ月後、昭和31年5月に太郎代局15番として架設されました。

開院当日に一人の患者さんを迎え、看護は対応に戸惑い、食事は薪の窯での調理だったため、給食員はパニックになったようです。病室の暖房は練炭コタツで、看護は冬になると朝4時に検温をし、それから炭火で練炭をおこして病室のコタツに入れたのです。豪雪時には陸の孤島となり、食糧がつかず、雪の中をソリで約4Km離れた松浜の八百屋まで買い出しに行くこともありました。また水道管が凍結し、洗顔もできない時もあったようです。

このように、開院当時は今では考えられないような状況の中で病院運営をしていました。当時の社会状況のなかでは「当たり前のこと」だったかもしれませんが、職員はいかに忍耐強く、根性を持っていたかが窺われます。また、仲間意識が強く、まとまりの良さはバレーボール大会で「打倒南浜」と言われたほど強かったことから推察できます。今後つらい時には先輩方の苦勞を思い出しながら「病院に関わる人、すべての幸せを願う。」を基本理念とし、人と人とのふれ合いを大切にする病院でありたいと思っております。

最後にこの年報が地域医療の架け橋となり、われわれが目指す精神科医療の一助となればと願っております。

平成26年11月

南浜病院

理事長 鈴木好文

目次

p.005 概要

基本理念	006
沿革	007
グランドデザイン	008
施設概要	011
組織図	013
要員配置表	015

p.17 実績報告

診療部	018
医局	019
歯科	021
薬剤科	022
放射線科	024
臨床検査科	025
栄養科	027
心理室	028
総合支援室	030
デイケア科	033
作業療法科	035

p.037 実績報告

看護部	038
外来	040
2階病棟	041
3階病棟	042
4階病棟	044
5階病棟	045
1階北病棟	047
中央材料室	048

p.049 実績報告

事務部	050
総務課	051
医事課	053
施設管理室	054

p.055 実績報告

福祉事業所	
障がい福祉サービス事業所 いなほ園	056
福祉ホーム あさひ荘	057
診療所	
とよさかクリニック	058

p.059

委員会活動報告

人事考課委員会	060
教育委員会	061
広報委員会	065
情報委員会	066
医療安全対策委員会	068
リスクマネージャー委員会	070
行動制限最小化委員会	072
院内感染防止対策委員会	074
ICT委員会	076
褥瘡対策委員会	077
NST委員会	079
薬事委員会	081
病院食検討委員会	082
衛生委員会	083
医療観察法運営委員会	085
退院支援委員会	087
業務改善委員会	089
未収金対策委員会	090
心理社会療法委員会	091
デイケア科運営委員会	093
精神科救急病棟準備委員会	095

p.097

業績

社会貢献	98
著書	100
論文他	100
研究発表	100
講演、座長など	101
実習生受け入れ	104

p.107

院内研究発表・研修

入賞研究（4例）	108
----------	-----

p.117

1年間の出来事

1年間の出来事	118
トピックス	123

p.127

病院統計

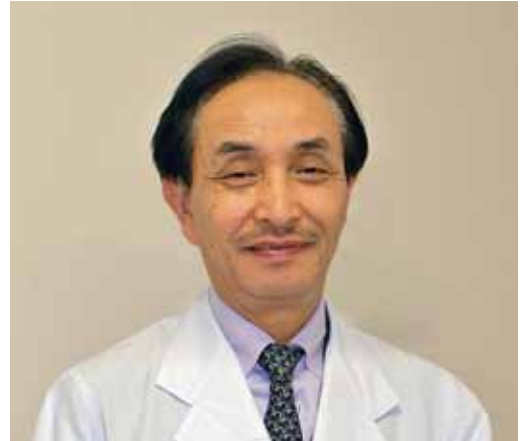
病院統計	128
------	-----

p.141

クラブ・同好会活動報告

活動報告	142
------	-----

南浜病院年報発刊 によせて



この度、平成25年度の南浜病院年報を発刊することができました。鈴木理事長の挨拶にもありましたように、この年報に見られる現在の病院の形や実績に至るまでには、多くの職員、スタッフの血のにじむような努力があったことを忘れてはならないと思います。

年報の意義は多くの医療機関、地域機関に当院の活動と目指すところを広く伝え、より連携を深められるよう寄与することです。と同時に、内部的には、改めて自分の活動を振り返り、今後に生かすとともに、隣の部署の職員、廊下で行き交う職員がどんな活動をしているのかを知るためのものでもあります。そのために、今までも、また現在も院内広報誌やホームページなどがあるのですが、なかなか継続的に、全体を通して、というわけにはいきません。もちろん日々の業務に力を傾けることは重要ですが「左手のしていることを右手が知らない」という状態は極力避けるべきことですし、非効率の元ともなります。また今、病院が何を目指し、今後どのように展開していこうとしているのかを、できるだけ多くの職員が理解していくこと、これもまた重要なことです。そのためにこの年報が生かされれば、と期待しています。

様々な機関、団体の講演に呼ばれて、テーマはそのときどきで違うにしても、大概5分程病院の写真を使用し南浜病院の紹介をすることが多くあります。まず興味を示すのは各階ごとのテーマカラーがある原色使用の明るさと、やはりレントゲン室の壁と天井のハワイの風景です。かならず聴衆が笑い顔になります。けれども、それ以上に、当院の理念である、「病院に関わる人、すべての幸せを願う。」という言葉ほど私たちが目標としている「何か」を伝えるものはないと思っています。患者さん、職員のみならず、家族、出入りの業者さん、病院建築に関わった人、製薬会社のMRさん、地域の人、関係機関、行政機関の人、「すべて」ですから、どこまででも広げていける、これは最強の理念ではないでしょうか。何よりも、この理念には精神科医療に欠けている、「希望」「明るさ」「笑い」の雰囲気があります。

40年近く精神科医療に携わり、当院の院長を引き継いで3年目になります。平成18年にダウンサイズして新築し、従来の精神科病院のあり方から急性期医療と地域移行促進に舵を切ってきた路線を継承し、今後も精神科救急と地域展開を進め、日本一の精神科病院を目指したいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

平成26年11月

南浜病院

院長 後藤雅博